

「森林サービス産業～新たな森と人のかかわり「Forest Style」の創造～」



「Forest Style ネットワーク」の立ち上げ

林野庁

森林利用課 山村振興・緑化推進室

多様な森林空間利用の期待の高まり～森林空間を活用した新産業創出に向けて～

- これまでも、森林空間は森林環境教育の場、アウトドアスポーツなどのレクリエーションの場、森林浴などの保健・休養の場として利用されてきた。
- 近年では、日本国民の生活スタイルや志向が変化し、企業経営や生き方の価値観、ライフスタイルの大きな転換の動きが見られるなか、**森林空間を積極的に活用したいという期待が高まり、そのニーズは多様化**している。

学び

青少年等が森林・林業について体験・学習する場や、木の良さやその利用の意義を学ぶ活動である「木育」の場として利用。

【事例】

- 森林環境教育
- セカンドスクール
- 森のようちえん
- 林間学校 等



遊び・スポーツ

景観や環境に優れた森林をフィールドとして、例えば、自然探勝、トレッキング、アウトドアスポーツの場として利用。

【事例】

- フォレスト・アドベンチャー
- ロングトレイル
- マウンテンバイク 等



健康・癒やし

森林の中でのリラクゼーション・プログラム等を通じて、森を楽しみながら、心と身体のリフレッシュや健康維持・増進、病気の予防を図ることを目的としたプログラムの場として利用。

【事例】

- 森林浴
- 森林セラピー
- クアオルトウォーキング 等



新たなニーズ

国民の価値観が多様化する中で、都市住民を中心に「ゆとり」や「やすらぎ」を求める傾向が強まっており、健康志向、環境意識の高まりと相まって、Uターン・Iターン、定住希望者が増加するなど、新しいライフスタイルを実現する場として利用。

【事例】

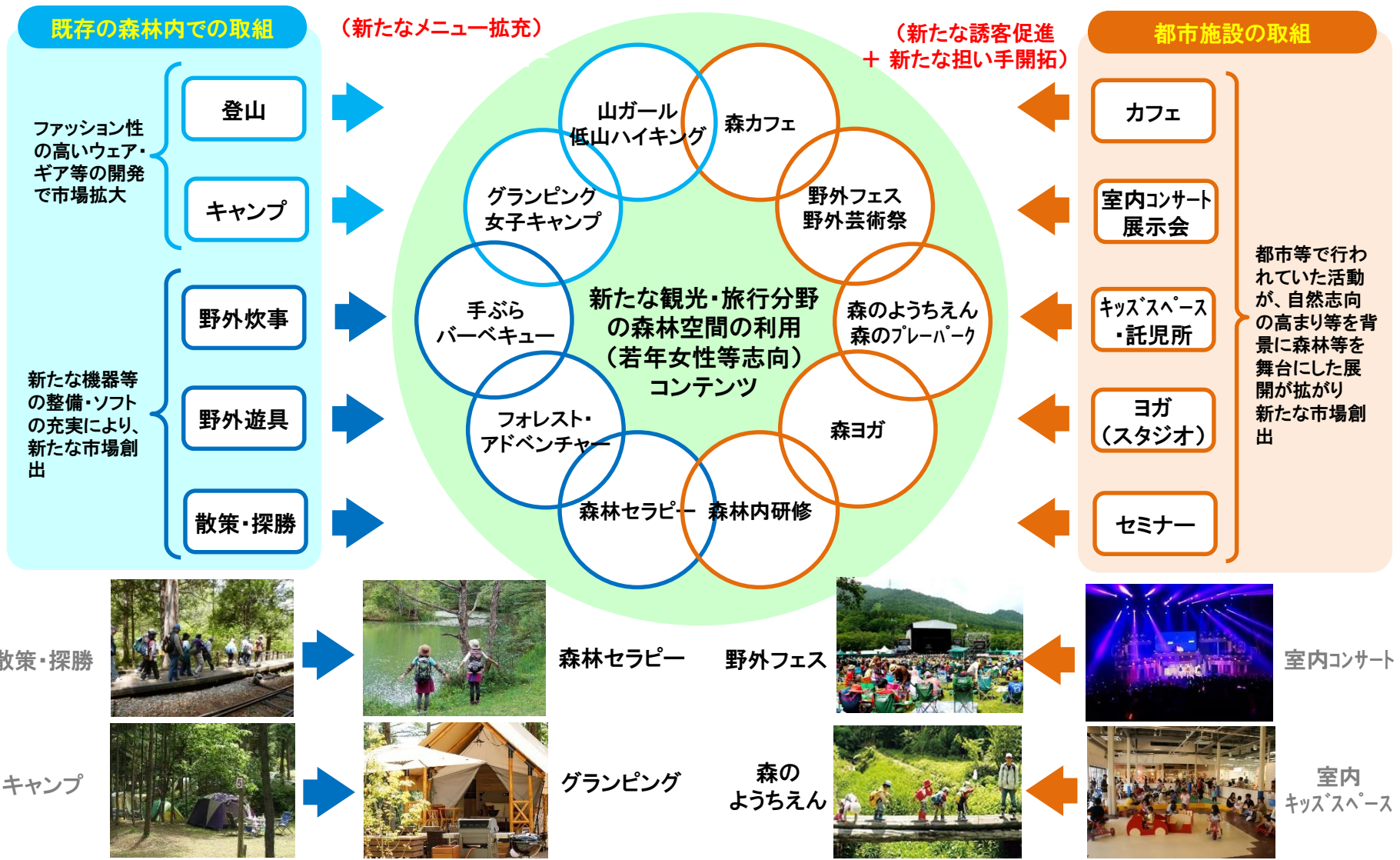
- サテライトオフィス
- テレワーク 等



森林資源の一つである森林空間を活用した新産業(森林サービス産業)の創出・推進により、山村振興・地方創生への寄与に期待

新たな森林との関わりで注目すべき分野：観光

新たな森林空間を利用したアクティビティ



なぜ、今「新たな森林空間の利用」が（3つの視点）

【社会経済の変化】

- AI・ロボット・IoT等進展をもたらす技術革新
- 経済のグローバル化による「モノ・コト・サービス化」への要請
- インバウンドによる訪日外国人の増大

【制度の見直し】

- 教育分野
：アクティブ・ラーニング等重視へ
- 医療保険分野
：疾病予防・健康づくり重視へ
- 労働分野
：「働き方改革」の推進

【価値観・ライフスタイルの転換】

- モノ・経済的な豊かさから、心・暮らしの豊かさ志向へ
- つながり志向の高まり
- ソーシャル志向の高まり
- 若者の地方志向の高まり

時代の変化を踏まえた、森林空間利用の新たな価値・取組の芽生え

- イノベーションをもたらすクリエイティブな思考力・デザイン力を育む場等としての森林の活用
- 訪日外国人による地方探訪

- 新たな時代に合わせた教育の場・題材としての注目
- 心身の健康づくりの場としての注目

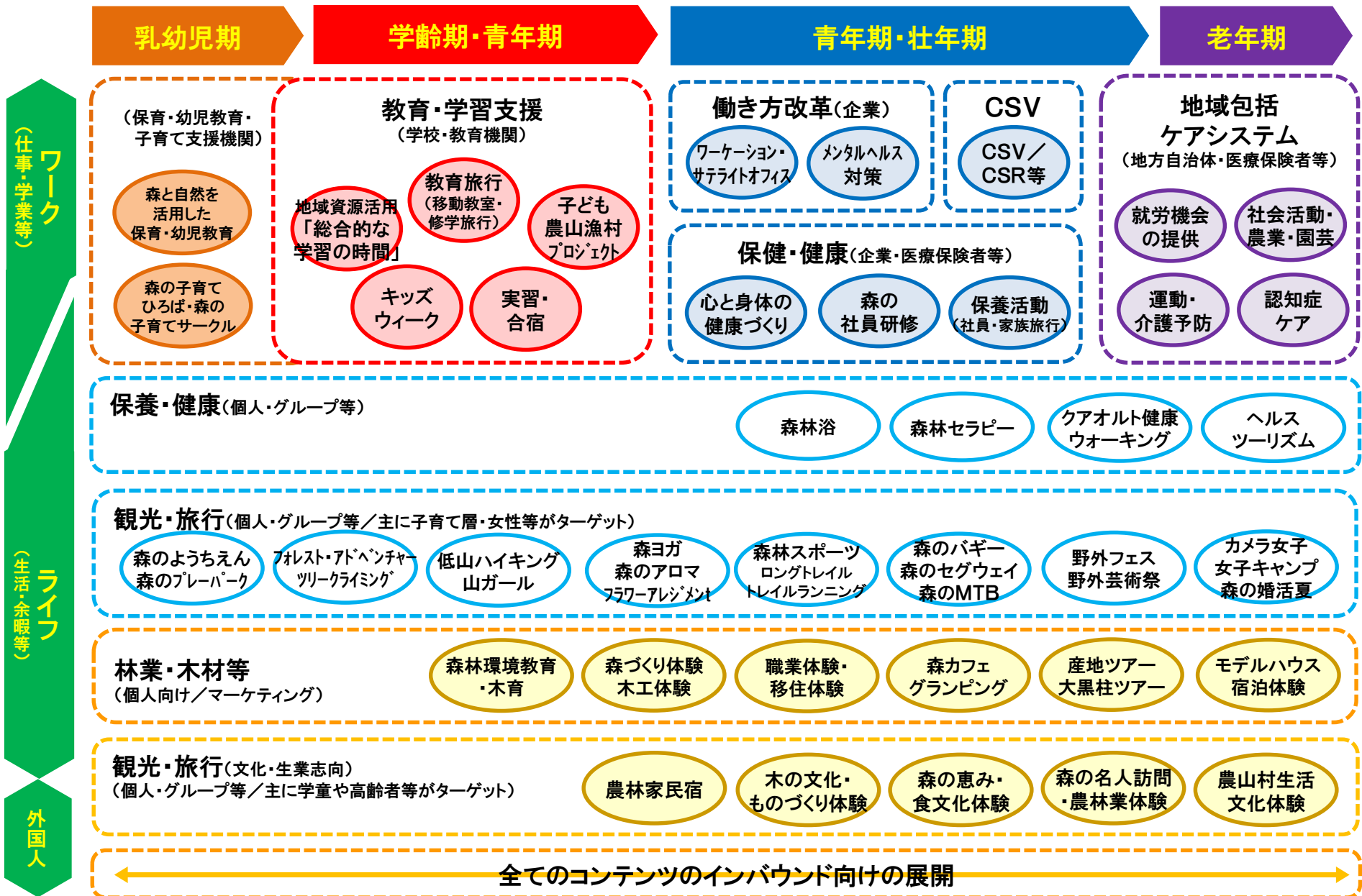
- 森とふれあう新たな価値への気づき
(新しいアクティビティの拡がり、趣味・娯楽を森林内で行う動き等)

森林空間を利用した
新たなサービス産業・ライフスタイルの創出

(教育、健康、観光等の場としての森林空間の利用)

「森林サービス産業 ～新たな森と人のかかわり「Forest Style」の創造～」の提案

ライフステージに応じた森林との関わり～「Forest Style」～



「森林サービス産業」について

○「森林サービス産業」とは？

- ・健康、観光、教育等の多様な分野が、森林資源のひとつである森林空間と繋がることにより創出される、**森林空間利用に係る新たなサービス産業**。
- ・山村地域が主体となった、**山村振興に資する持続可能な産業**。
- ・「森林サービス産業」を通じて、**木材生産以外の多様な手段と機会での雇用と収入機会の安定化・多様化が確保**され、**地域ブランド力の向上**に貢献。



※創出・推進が期待される組み合わせパターン

森林空間(山村地域)×「企業の健康経営・働き方改革の実施、企業の研修・教育、遊び・スポーツ、癒し、幼児教育」etc...



観光



教育



健康



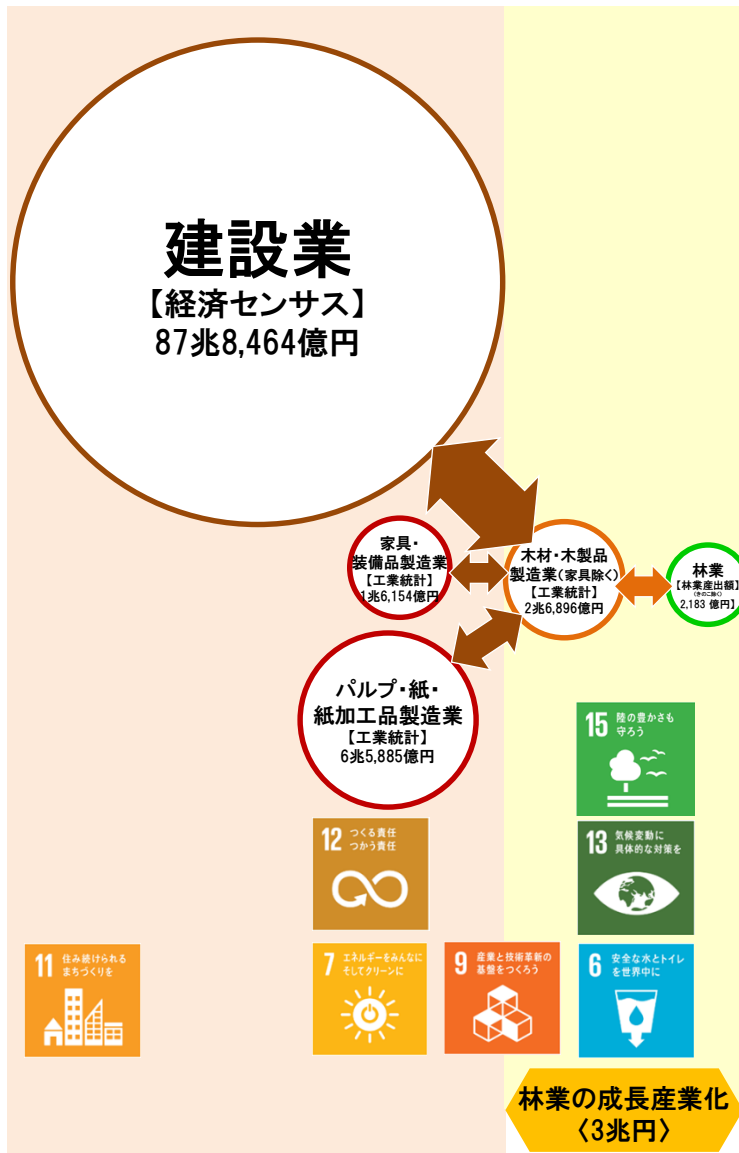
○山村振興に、なぜ「森林サービス産業」が必要？

- ・人口減少・少子高齢化社会の到来を迎えるなかで、**林業の成長産業化とともに、その基盤を支える山村地域の振興を図ることが不可欠**。
- ・山村地域の振興策として、木材以外の**森林資源を利用して安定した雇用と収入機会を確保させることが重要**。



「林業の成長産業化」と「森林サービス産業」が車の両輪となり、山村振興・地方創生に向けて取り組むことが不可欠。

他産業との連携による森林の付加価値向上



林業の成長産業化
(3兆円)

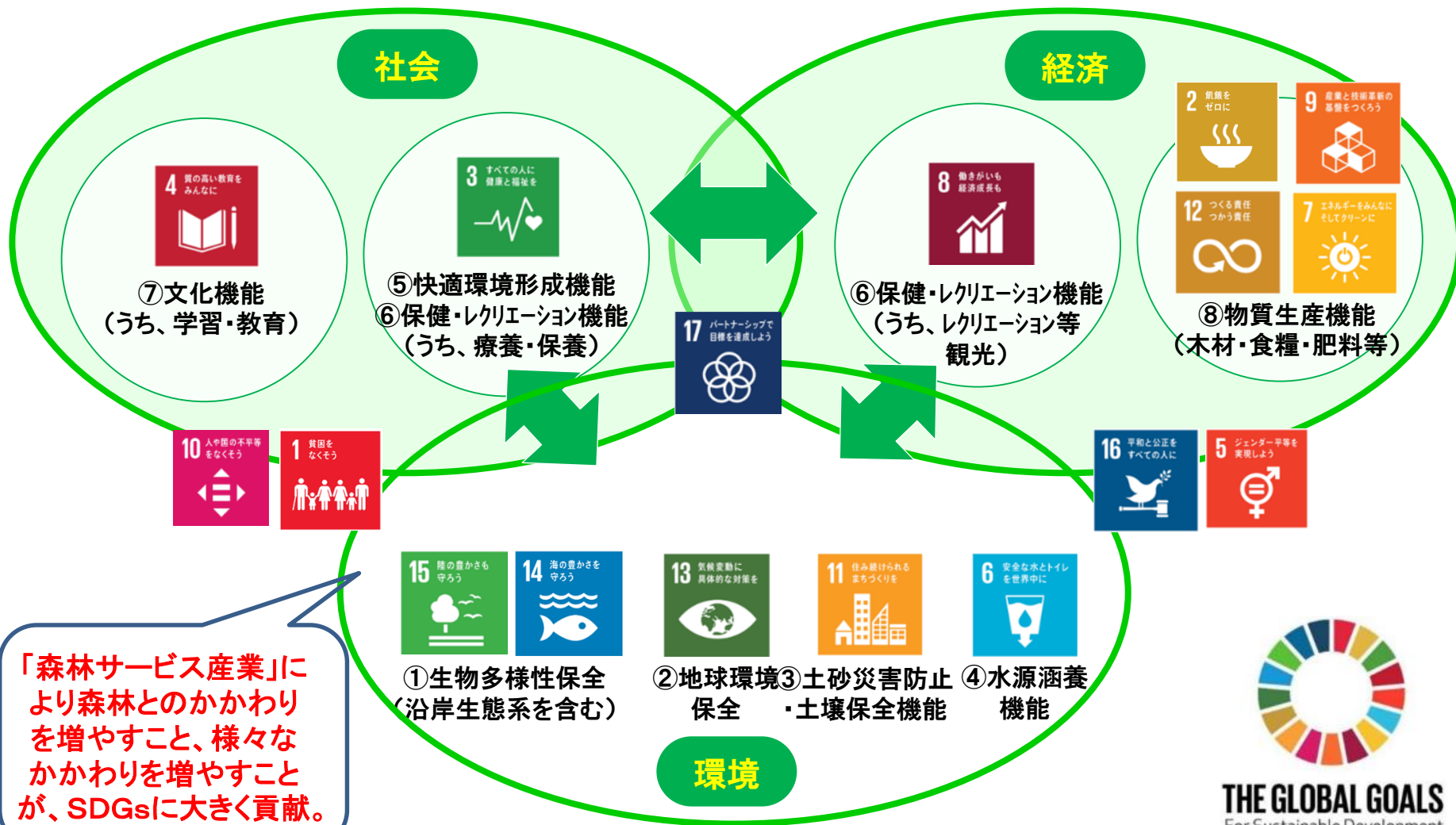
発展的な「林業の成長産業化」(6次産業化志向)
(96兆円の内数)



発展的な「林業の成長産業化」(観光等を含めた6次産業化志向)
(142兆円の内数)

SDGs 達成に貢献する「森林サービス産業」

「森林サービス産業」による「森林空間の総合利用」によるSDGs達成への貢献



※ SDGsのターゲットの環境・社会・経済の位置付けは、個々の活動の目標によって異なるが、本資料では上記の位置づけで整理

「森林サービス産業」の創出・推進に向けた取組のながれ（想定）

2018年度	2019年度	2020年度	2020 ~ 2022年度	2023年度～
--------	--------	--------	---------------	---------

「森林サービス産業」 検討委員会 (2018年8月設置)

- とりまとめられた課題・方向性
(平成31年3月報告書)
- 事業の中核を担う人材の開拓・育成
 - 森林サービス産業のもたらす効果（エビデンス）の発信・共有・蓄積
 - 需要側と供給側の効果的な情報の共有の仕組みの構築
 - 地域の推進体制の整備、プログラム開発
 - プロモーション

「森林サービス産業」 キックオフ・フォーラム (2019年2月実施)

「森林サービス産業」の創出に向けた議論の醸成

「森林サービス産業」 検討委員会 (2019年8月設置) -官房政策課移替予算-

「森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査検討事業」

健康分野におけるエビデンスの取得、発信・共有、蓄積に係る課題解決に向けて、検討会、試行運用を通じて**モデル手法の提案**。

+

「森林サービス産業」に係る関係者の**自立的かつ持続的な運営が可能となる情報共有体制等のモデル手法等の提案**。

● 具体的な解決方策のモデル提示に向けた検討・分析など

新規予算要求事業

「森林サービス産業」創出・推進に向けた活動支援事業」

モデル事業
「森林サービス産業」の推進に向けた課題

↕

効果分析・情報発信
有識者協議会による効果分析・横展開の実施

↕

課題解決型研修会
課題解決の検討方策、戦略、計画等の研修会

モデル事業等を通じた具体的な「森林サービス産業」の創出・推進に向けた取組

Forest Style ネットワークの設置

「森林サービス産業」の創出・推進に向けた関心ある民間企業等によるネットワーク構築

3か年の取組方針

- モデル的な取組を通じて「森林サービス産業」の**具体事例を積み上げ、民間企業等の需要側へ効果を発信し関心を拡大**
- 健康分野のエビデンスや企業にとっての具体的効果を検証し、明確化**
- 山村等の供給側へ**具体的実施手段の共有化**
- インバウンド対応も視野に入れ、「森林サービス産業」の**コンテンツの充実**

民間団体等による設置・運営

民間団体等の主導による「森林サービス産業」の展開

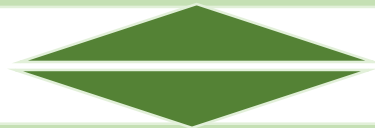
「森林サービス産業」プラットフォーム

令和元年度「森林サービス産業」検討委員会について

「森林サービス産業」検討委員会

「森林サービス産業」、国産植物精油による香ビジネスの現状及び課題の把握、産業の創出・推進に向けた提言を実施

	氏名	所属・役職		氏名	所属・役職
委員	赤池 学	(一社) CSV開発機構 理事長	委員	椎川 忍	(一財)地域活性化センター 理事長 (一社)移住・交流機構 業務執行理事
委員	安藤 伸樹	全国健康保険協会(協会けんぽ) 理事長	委員	志村 格	(一社)日本旅行業協会(JATA) 理事長
委員	池田 三知子	経団連自然保護協議会 事務局長	委員	武居 丈二	全国町村会 事務総長
委員	稲本 正	東京農業大学 客員教授	委員	土屋 俊幸	東京農工大学大学院 農学研究院 教授 林政審議会 会長
委員	大本 晋也	(独)国立青少年教育振興機構 理事 国立淡路青少年交流の家 所長	委員	津野田 勲	(一社) 香りの健康ライブラリー 代表理事
委員	久保 成人	(公社)日本観光振興協会 理事長	委員	鍋山 徹	(一財)日本経済研究所 専務理事 林業復活・地域創生を推進する国民会議 WG代表
委員	熊谷 晃	長野県営業局長	委員	松本 晃	(株)日本政策投資銀行 地域企画部 参与役
委員	佐野 雅宏	健康保険組合連合会 副会長・専務理事 安田日本興亜健康保険組合・理事長	委員	宮林 茂幸	東京農業大学 地域創成科学科 教授 美しい森林づくり全国推進会議 事務局長



エビデンス専門部会

- エビデンス取得・発信・蓄積等調査
 - i) エビデンス等の収集
 - ii) 企業等ニーズ調査
 - iii) 企業・医学界等の先進事例調査
 - iv) 導入企業等のヒアリング調査
 - v) エビデンス取得手法試行運用等

情報共有専門部会

- マッチングの仕組み等調査
 - i) 関係者間の情報共有の課題整理・プラットフォーム構築を通じたマッチングの仕組みの事例収集
 - ii) 情報共有の仕組みの整理・分析
 - iii) 情報共有の体制モデルの提案

香イノベーション専門部会

- 香ビジネス促進に向けた調査・分析
 - i) アロマオイル事情の調査
 - ii) 生産流通実態・ニーズ等調査
 - iii) 国産植物精油の効用等の調査
 - iv) 業界認証制度の必要性等検討
 - v) 生産者・消費者との意見交換

調査検討委員会・専門部会の設置 及び 調査・分析

新たな森林空間利用創出対策（拡充）

【令和2年度予算概算要求額 150,000（84,637）千円】

（注）令和2年度予算要求中につき、未確定。

<対策のポイント>

地方の活性化に向けた「関係人口」の創出・拡大のため、森林空間を多様な分野で活用する「森林サービス産業」の創出・推進の取組や、「日本美しい森お薦め国有林」の重点的な環境整備を行うとともに、緑化や森林・林業に対する国民理解の醸成を図るため、全国規模の緑化行事の開催を支援します。

<政策目標>

- 新たに「森林サービス産業」の創出・推進に向けて取り組む地域数（30地域以上 [令和4年度まで]）
- 重点整備された「日本美しい森 お薦め国有林（レクリエーションの森）」の利用者数（50%以上増 [平成29～令和2年度まで]）

<事業の内容>

<事業イメージ>

1. 「森林サービス産業」創出・推進に向けた活動支援事業 70,363（-）千円

健康、観光、教育等の多様な分野で森林空間を活用して、新たな雇用と収入機会を生み出す「森林サービス産業」の創出・推進の取組を支援します。

- ①「森林サービス産業」モデル事業の実施
- ②森林空間利用に係る新産業創出に向けた課題解決型研修会の実施
- ③課題共有・解決のための効果分析・情報発信

2. 森林景観を活かした観光資源の整備事業 47,845（52,845）千円

国有林のレクリエーションの森のうち、特に観光資源としての活用の推進が期待される93箇所を「日本美しい森 お薦め国有林」として選定しています。

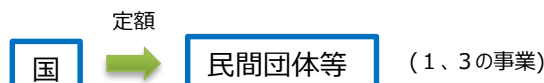
「日本美しい森 お薦め国有林」において、利用者の増加を目的に、多言語による情報発信や歩道の整備などの、重点的な環境整備に取り組めます。

3. 全国規模の緑化運動の促進 31,792（31,792）千円

国土緑化運動の中心的な役割を果たす全国植樹祭、全国育樹祭、みどりの感謝祭等の開催を通じて、緑化や森林・林業に対する国民の理解醸成を図ります。

- ①全国植樹祭、全国育樹祭、みどりの感謝祭等の全国規模の緑化行事の開催
- ②全国規模の緑化行事を効果的に行うための関連イベント等の実施

<事業の流れ>



（※2の事業については、国有林による直轄で実施）

「森林サービス産業」創出・推進に向けた活動支援事業

「森林サービス産業」の創出・推進に向けた取組の支援

モデル事業の実施

【内容】民間企業等と地域協議会等が、「企業の健康経営」による森林空間利用を核とした「森林サービス産業」の創出・推進に向けた課題解決に取り組むためのモデル事業の実施



課題解決型研修会の実施

【内容】森林サービス産業創出に向けた長期戦略・構想の構築・共有の促進を旨とした課題解決型研修会を開催



効果分析・情報発信

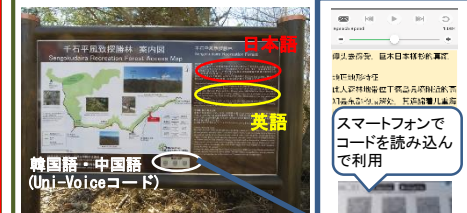
【内容】効果の検証、先行事例等の分析・企業等のニーズ側への効果の発信・山村等の供給側への具体的実施手段の共有



森林景観を活かした観光資源の整備事業

観光資源としての魅力向上に向けた取組

施設整備等の環境整備（案内看板の多言語化、歩道の整備等）



案内看板の多言語化



歩道の整備（階段の設置）

全国規模の緑化運動の促進



全国植樹祭

全国育樹祭

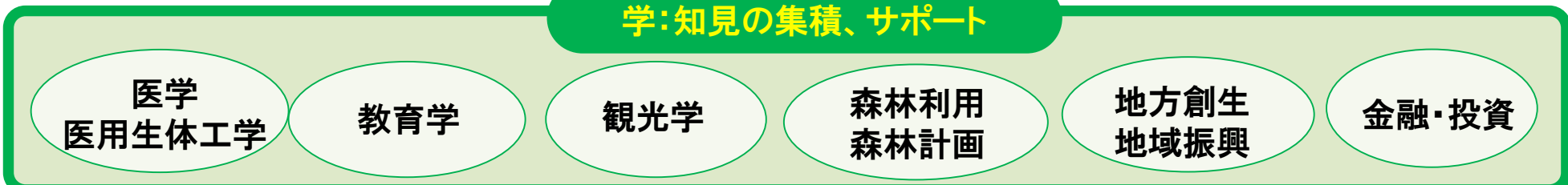
緑の少年団交流会

みどりの感謝祭

国土緑化運動による国民理解の醸成

【お問い合わせ先】（1、3の事業） 林野庁森林利用課（03-3502-0048）
（2の事業） 林野庁経営企画課（03-6744-2323）

「森林サービス産業」の創出に向けた産官学連携の必要性



様々な関係者が参画する分野横断的な連携が必要

「Forest Style ネットワーク」

これまでとこれからの「森と人のかかわり」 ～「Forest Style」の目指すもの（イメージ）

※ Forest Styleとは

人生100年時代のあらゆるステージにおいて、森林とのふれあいや森の恵みをいただきながら、健康的で、文化的な、楽しく心豊かに暮らすことを目指すライフスタイル。

これまで多く見られた「森と人のかかわり」

これからの拡充が期待される新たな「森と人のかかわり」=「Forest Style」

森林・山村地域

新たな国民運動の展開

「月に一度は森林へ行こう」等の展開

【愛好者】

- 登山
- 自然・野鳥観察
- キャンプ
- ゴルフ 等

（対象が限定）
（森との関わりが限定）

【旅行者】

- レジャー（スキー）
- 観光（景勝地探勝）
- 保養（リゾート・別荘）
- 合宿

（訪問が一時的）
（森との関わりが薄い）

【ワーク
ライフ】

【乳幼児期・学齢期／教育等】

- 森と自然を活かした保育・教育
- 森のアクティブ・ラーニング等

（教育の質の向上）

【青壮年期・老年期／健康等】

- 心と身体の健康づくり
- 社員教育 ○ワーケーション等

（健康増進・生産性向上）

【生活者／観光等】

- オシャレで手軽な森とのふれあい
- 都会の趣味・娯楽等を森林の中で

（暮らしの豊かさの向上）

定住人口（移住）

交流人口

関係人口

（二地域居住）